

田川地区の県立高校再編整備計画(第2次計画)及び庄内中高一貫校(仮称)に係る  
保護者等説明会【遊佐町会場】記録(要旨)

1 日 時 令和元年7月5日(金) 午後7時から午後8時30分

2 場 所 遊佐町 生涯学習センター(遊佐町遊佐字鶴田52-2)

3 出席者 地域の方々 12名

県教委 片桐高校教育課長、生島高校改革推進室長、伊藤高校改革推進室長補佐  
奥山高校改革主査、丹野高校改革主査、安達高校改革主査

4 内 容 生島室長から説明後、質疑応答

## 5 質疑応答概要

(質問・意見)

併設型中学校から入学する生徒は高校の内容の一部先取りをしており、高校から入学する生徒と進度差が生じるが、高校1年生は、内進生と外進生は同じクラスになるのか。

(県教委)

東桜学館高校の場合は、高校1年生は内進生と外進生のホームルームを別にし、高校2・3年生は混合クラスとなる。ただし、先取りをしている数学については、高校2・3年生においても、進度別に分けて、少人数で授業を行うこととしている。庄内中高一貫校(仮称)については、様々な事例を踏まえて検討していく。

(質問・意見)

庄内地区は選択の幅が狭く、特に遊佐町は県境にあり選択肢が限られ、悔しい思いをしてきた。開校を待たずに、庄内中高一貫校(仮称)で目指す教育の一部を、現行の中学生・高校生にフィードバックしてほしい。

(県教委)

中高一貫教育校は、6年間の計画的・継続的な教育活動により個性や能力の伸長を目指すものであり、どの学校においても、子どもの適性に合わせて、指導していくことは大事にしていることである。また、本県は探究型学習を推進しており、酒田東高校に探究科を設置し、鶴岡南高校においても探究的な学びを推進し、両校が庄内地区において両輪となり、探究型学習の推進している。また、庄内中高一貫校(仮称)では、庄内の教育資源を有効に活用することにより、他にはない庄内ならではの学校を作りたいと考えているところであり、いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきたい。

東桜学館中学校・高校は中高一貫教育校であることにより、中学から高校への学びの接続を研究し、実践している。県としても中高連携については重要だと考えている。例えば、英

語においては、中高教員相互派遣事業を実施し、互いに研修している。

また、東桜学館中学校・高校、鶴岡南高校は、スーパーサイエンスハイスクールに指定されているが、酒田東高校もスーパーサイエンスハイスクールの申請に向けて準備をしている。このように、探究型学習など、中高一貫教育校で目指してきたものは、他の学校においても実践されている状況にある。

以上